

経営比較分析表（令和5年度決算）

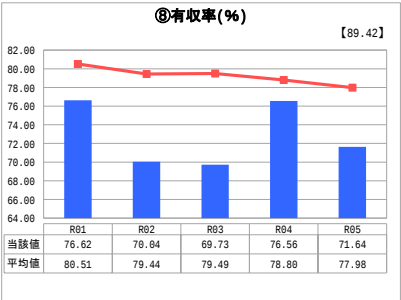
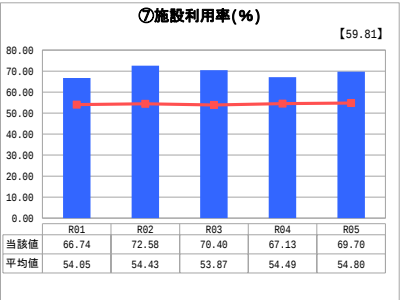
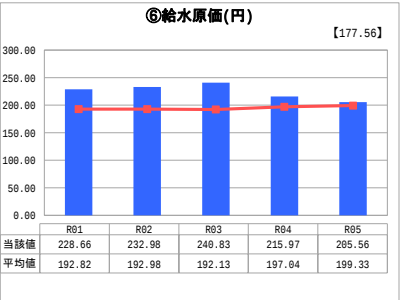
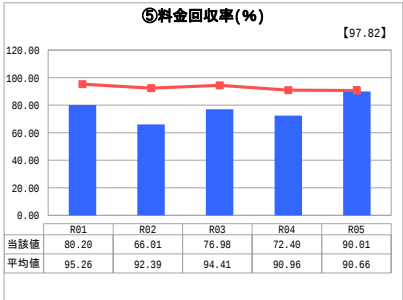
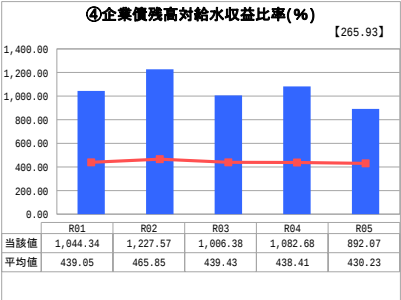
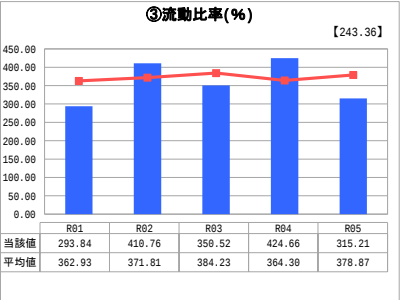
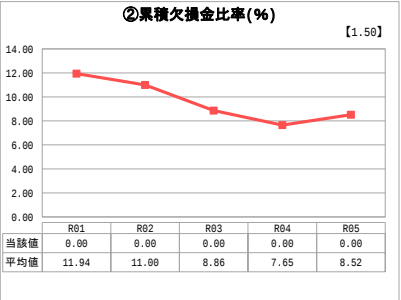
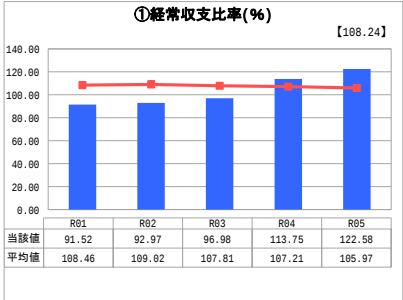
兵庫県 新温泉町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家賃料金(円)	
-	53.59	98.75	3,520	

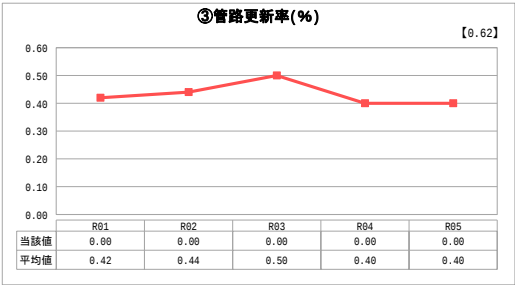
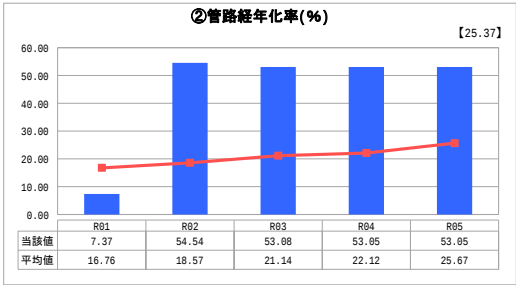
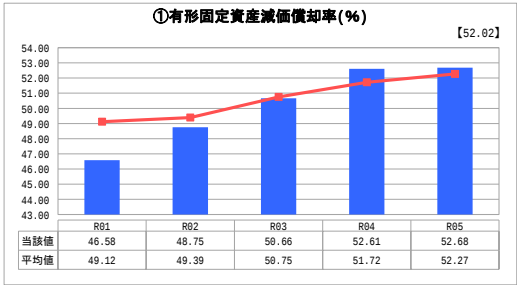
人口(人)	面積(k㎡)	人口密度(人/k㎡)
13,094	241.01	54.33
現在給水人口(人)	給水区域面積(k㎡)	給水人口密度(人/k㎡)
12,811	32.33	396.26

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は対前年8.83ポイント増加しており、改善している。要因としては減価償却、人件費の減少が上げられる。しかし、給水人口は減少しており、老朽管修繕等の経費の増加が予想されるため厳しい状況が見込まれる。

累積欠損比率は累積欠損金が発生させていないため0で推移している。

企業債残高対給水収益比率に係る企業債残高は令和4年度に感染症拡大による経済的支援のため、基本料金免除により上昇した。令和5年度は再び通常収入となったため、190.61ポイント減少した。料金回収率は前述の基本料金免除の影響がなくなったこと、人件費の減等による給水原価の減少によって対前年比17.61ポイントの増となっている。

有収率は、対前年比4.92ポイントの減となっている。これは送水管等の老朽化による漏水の発生によるものであり、今後も漏水の早期発見に努めたい。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、平成30年度に配水池整備事業が完了したことにより若干改善したが、送水管の老朽化は進んでいるため、今後の計画的な更新が必要である。

管路経年化率は、令和元年度までの報告数値の単位誤りにより、大幅に上昇しているが、実質的には前年までほぼ同様な数値で推移している。ただし類似団体平均より送水管等の老朽化が相当進んでいるため、管路更新を計画的に実施していく必要がある。

管路更新率は、全地域において老朽化がかなり進んでいるが、浄水場等の整備を優先したため、管路の更新が出来ていない。技術職の不足により対応が困難な状況であるが、令和6年度策定予定の施設更新計画により、計画的に施設の更新を行っていく。

全体総括

水道事業の経営において、山間地域の多い本町では旧簡易水道施設が点在しており、施設の統廃合は地形的にできない状況である。管路延長も長く、維持管理費用の削減も限界がある。今後、基幹管路だけでなく配水管も相当老朽化しているため更新が必要となっている。

また浄水場の紫外線及び膜ろ過の整備を行ったことにより企業債償還額の増加などにより収支状況は厳しい状況が続くものと考えられる。

今後は令和6年度に水道事業経営戦略を改定する予定としており、その経営戦略に沿って、計画的・合理的な経営運営を図るとともに、水道使用料の適正化などの検討を行い、経営の健全化に努める。